



大阪大学外国語学部・外国学専攻主催 シリーズ「さまざまな視点で世界を見る」
第 1 回 トルコ・シリア北部地震 チャリティ講演会
〈同日開催〉トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会

7/22 (土) @箕面キャンパス

14:00~16:30 (トルコ・シリア北部地震 チャリティ講演会)

17:00~19:00 (トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会)

❖ 概要

大阪大学外国語学部では、「さまざまな視点で世界を見る」と題した年次開催のイベントを開催していきます。7月22日(土)には、第1回として、トルコ・シリア北部地震チャリティ講演会を開催します。

大阪大学外国語学部は、25の専攻語を教育・研究しており、トルコ語専攻はその1つです。

2023年2月、トルコ東部およびシリア北部は巨大地震によって甚大な被害を受けました。死者は5万人を超え、いまなお約25万人が仮設住宅やテントでの暮らしを余儀なくされています。また今回の震災は大統領選挙直前に起こったことも相まって、トルコにおいて地震対策の遅れや違法建築の蔓延、それを許してきた政治・行政の体質など、さまざまな問題を提起しています。奇しくも今年、建国100周年を迎えるトルコのいまについて、トルコの地震とその歴史、現地報告などを交えながら考えます。

当日は、取材いただけるメディアの方に、講演会の様子を撮影いただけるスペースも設けています。

また、講演会後の17:00より、「トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会」を開催します。

つきましては、本イベントの積極的なご周知と当日のご取材・出席をお願い致します。

❖ トルコ・シリア北部地震 チャリティ講演会 概要

【日 時】 7月22日(土) 14:00~16:30 (13:30 開場)

【場 所】 箕面キャンパス外国学研究講義棟 1 階大講義室

住所: 大阪府箕面市船場東三丁目5番10号

【対象者】 事前申し込んだ方

【定員】 250 名

【講演内容】 トルコのいまについて、トルコの地震とその歴史、
現地報告などを交えながら4名の登壇者が講演します。

プログラム・登壇者についてはP.2~3 参照

※講演会開催後「トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会」を開催予定です。(詳細は p.3)

【申込み方法】 下記 URL もしくは QR コードからお申込みください。

URL : <https://peatix.com/event/3610522/view>

【参加費】 一般: 1,600 円 大阪大学の学生: 500 円 高校生以下: 500 円

(「トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会」で使えるドリンクチケット込み)

※参加費は諸経費を除き、CODE 海外災害援助市民センターを通じて、
全額トルコ地震支援のために寄付させていただきます。



(左)被災地の様子
(上)仮設住宅の様子
撮影: Hasan Deniz



お申込み用 QR コード

Press Release

❖ シリーズ「さまざまな視点で世界を見る」 開催の背景

大阪大学箕面キャンパスは、OU グローバルキャンパスとして、大阪大学における社会学共創活動の一翼を担う社会に開かれたキャンパスとなることが期待されているキャンパスです。また、2023 年度末に予定されている北大阪急行延伸等による人流の変化を見据え、外国語学部・人文学研究科外国学専攻主催イベントの開催を検討しており、今年度から、専攻語や教育・研究の特色を生かして、そのときに最も世界的な課題と関連付けられるテーマを設定し、参加者に新たな視点を得る体験をしてもらう年次開催のイベントを開催することとなりました。

❖ トルコ・シリア北部地震 チャリティ講演会 イベント詳細

<プログラム>

1. 講演：岩城 あすか

「被災地を通して考える復興支援～マルマラ地震(1999 年)とトルコ&シリア地震(2023 年)の状況から～」
トルコ留学中に経験したマルマラ地震の復興支援の状況と、今回の被災地の様子を比較しながら、トルコ南東部やシリア北西部の複雑な状況について理解を深め、効果的な支援の在り方について考えます。

2. 講演：宮下 遼

「違法建築と政治、不法居住者という文化：トルコ共和国の都市化を考える」

第 2 次世界大戦後、トルコ共和国は急激な都市化を経験しましたが、それは不法移住者の都市への蟄集と違法建築の氾濫を特徴としていました。本講演では主に 80 年代以降の不法居住区をめぐる文化的、政治的な動きを概観しながら、今回の震災について都市化という視点から考察します。

3. 講演：島村 優希

「復興支援ボランティアを通じた、学生の視点から見た被災地」

NGO (CODE 海外災害援助市民センター) を通じて、訪れた地震発生 1 ヶ月半後の被災地。テント、仮設住宅をまわり、被災者一人一人から様々なお話を伺いました。被災者の話から見える被災地の状況をお伝えすると共に、学生として感じた気づきや思いをお話しします。

4. ビデオレター：ウムット・リュトフィ・オズテュルク

「トルコと日本 永遠の友」

<講演者紹介>

岩城 あすか

公益財団法人箕面市国際交流協会事務局次長兼総務課長。大阪外国語大学トルコ語専攻を卒業後、1997～2001 年までトルコ共和国のイスタンブール大学(院)に留学。留学中の 1999 年にトルコ北西部地震が発生。日本の新聞社や出版社、テレビ番組等のトルコ語通訳等に従事するほか、復興支援プロジェクトにも携わる。帰国後はトルコ共和国大使館商務部や国連 UNHCR などの臨時通訳を経験。



宮下 遼

大阪大学人文学研究科外国学専攻准教授。専門はトルコ文学(史)。著書に『物語イスタンブールの歴史』(中央公論社)、『無名亭の夜』(講談社)、『トルコ語』、『多元性の都市イスタンブール』(ともに大阪大学出版)ほか。訳書にオルハン・パムク『私の名は赤』、『ぼくの違和感』、『ペストの夜』(ともに早川書房)など多数。



Press Release

島村 優希

大阪大学人間科学部 4 年生。共生行動論研究室に所属し、災害ボランティアについて社会心理学を通じて学ぶ。2022 年 10 月から CODE 海外災害援助市民センターのインターン生。CODE を通じ、被災地のトルコに 3/21～3/31 の間の現地調査に同行した。



ウムット・リュトフィ・オズテュルク

在名古屋トルコ共和国総領事。1977 年に生まれ、アンカラ大学政治学部国際関係学科を卒業。ジョージア、オーストラリア、イタリア、スイス、マケドニアにあるトルコの在外公館勤務を経て 2021 年 4 月から現職。



◎島村優希氏（講演者）がトルコで撮影した写真



❖ 主催・協力・後援

主催 大阪大学外国語学部、大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻

協力 大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学 21 世紀懐徳堂、株式会社箕面ビール

後援 箕面市、箕面市教育委員会、吹田市教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市国際交流協会（企画協力）

❖ トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会 概要

講演会開催後「トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会（意見交換会）」を開催予定です。

MAFGA が運営するコムカフェが調理したトルコ料理を販売・提供、箕面ビールの販売、トルコ語専攻によるトルココーヒーとチャイの販売を行う予定です。

トルコ語専攻によるトルココーヒーとチャイの販売の収益並びにコムカフェ、箕面ビールの収益の一部は CODE 海外災害援助市民センターを通じて、トルコ地震支援のために寄付させていただきます。

※講演会にご参加された方には、箕面ビールもしくはオーガニックジュースが飲めるドリンクチケットを 1 枚お渡しさせていただきます。

※「トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会」のみご参加頂くことも可能です。

※トルコ料理のコースのみ下記 URL もしくは QR コードからの事前申込み制とさせていただきます。



お申込み用 QR コード

URL : <https://peatix.com/event/3610522/view>

Press Release

❖ 取材申込について

※本イベントについて、ご取材いただける際は、会場設営の関係上、7月19日(水)17時までに以下のWeb登録フォームから申請をお願いします。

URL : <https://forms.office.com/r/fbAh89CNcC>



❖ 会場

トルコ・シリア北部地震 チャリティ講演会
《1階大講義室》



トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会
《3階ピロティ》



❖ 紹介

箕面市国際交流協会 (MAFGA)

1992年6月に財団法人として設立され、2013年4月に公益財団法人に移行した箕面市国際交流協会は、①外国人市民の人権保障、②多文化共生社会の実現、③市民参加による地域づくりの推進の3つのミッションを掲げて、市民、ボランティア、行政との協働のもと、地域に根差した多文化共生社会の実現に向け取り組みを行っている。

箕面ビール

箕面ビールは、大阪箕面に誕生したブリュワリー（ビール醸造所）で、1997年に製造を開始して以来、これまで数々の世界コンクールで金賞を受賞するなど国内外から高い評価を得ており、地元箕面市民に愛されている企業の一つ。

また、地元の自治会と共催のイベント「創業感謝祭」を開催するなど、地域活性化にも力を入れている。

CODE 海外災害援助市民センター

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験と知見を活かし、幅広い智恵や能力をもつ企業、行政、国際機関、研究機関、NGOなどを含めた市民の集まる場として2002年1月17日に発足。前身となる阪神大震災地元NGO救援連絡会議の時期も含め、これまで63回の救援活動を行ってきた。「最後のひとりまで」の理念を胸に、「寄り添いからつながりへ」人間復興となる救援を実践している。

トルコ・シリア北部地震では、被災地と日本をつなぎながら、被災地の情報を発信したり、救援募金の協力を呼び掛けるなどの活動を続けている。